

## OPAT

Oita university Primary Aldosteronism research Team



4科連携による、日本トップの原発性アルドステロン症診療と研究

### 内分泌・糖尿病内科

PAの診断と重症度判定  
術後経過の内分泌評価  
術後予後とQOLの調査

### 腎臓外科・泌尿器科

外科治療適応の判断  
周術期評価  
術後変化の対応

### 放射線科

副腎腫瘍の評価  
AVSの実施  
超選択的AVSの適応検討

### 腎臓内科

腎障害の評価  
血管障害の評価  
電解質評価

PA: 原発性アルドステロン症  
AVS: 副腎静脈サンプリング

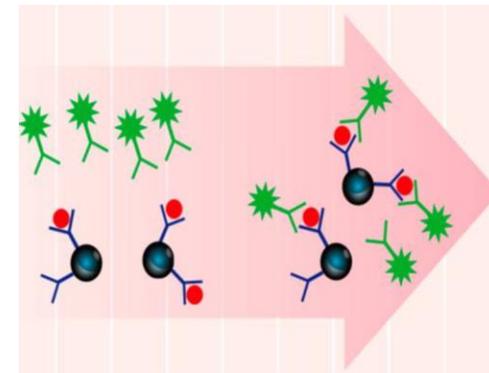
OPATは内分泌・糖尿病内科、腎臓外科・泌尿器科、放射線科、腎臓内科が連携し、原発性アルドステロン症を中心とした副腎疾患の質の高い研究、診療を行っている。

OPATが結成されて以降、以下の研究および症例報告が行われた。その他にも多数の研究や症例報告を現在作成中である。

1) Re-assessment of the oral salt loading test using a new chemiluminescent enzyme immunoassay based on a two-step sandwich method to measure 24-hour urine aldosterone excretion. *Front Endocrinol (Lausanne)*. 2022 Mar 21;13:859347. First author: 尾関良則

当院では世界に先駆けて新たなアルドステロン測定方法を研究している。前の研究報告で、血液中のアルドステロンを2ステップ法によるCLEIA法を用いて測定し、その正確性について報告した。本研究は、同じ測定方法を用いて尿中のアルドステロンの測定について検討した。

また原発性アルドステロン症の診断方法の1つである経口食塩負荷試験のカットオフ値を $\geq 3\mu\text{g}/\text{day}$ を提案した。

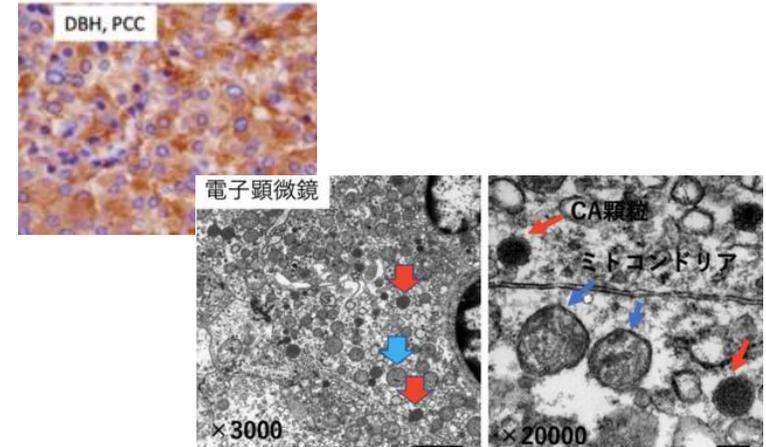


## 2) Dopamine-Secreting Pheochromocytoma and Paraganglioma.

J Endocr Soc. 2021 Oct 29;5(12):bvab163. First author: 宮本昇太郎、吉田雄一

本症例は偶発的に発見されたパラグングリオーマであり、それが主にドパミンを産生する非常に珍しい病態であった。腫瘍は大きく、腎臓外科・泌尿器科と密に連携をとり術後は当院病理部、函館病院病理部木村先生に診断していただいた。特に本症例は免疫染色と電子顕微鏡による評価を行った初めての報告で、その機序を解明した。

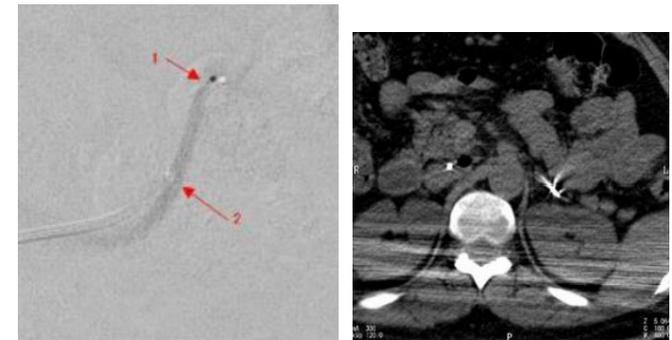
本症例をmini reviewとして報告した。



## 3) Adrenal Vein Sampling With Gadolinium Contrast Medium in a Patient With Florid Primary Aldosteronism and Iodine Allergy.

J Endocr Soc. 2022 Mar 1; 6(3): bvac007. First author: 吉田雄一

本症例は重症の原発性アルドステロン症が疑われたものの、ヨード造影剤のために通常の副腎静脈サンプリングが実施できなかった。特別な許可を得て、ヨード造影剤の代わりにガドリニウム造影剤を使用し、血管造影CTを併用することで、12回の採血をわずか5mLのガドリニウムで行うことができた。実施にあたり、事前に放射線科と十分な連絡をとりあっていたため、合併症なく非常に難しい検査が実施できた。



左: ガドリニウム造影  
右: 血管造影CT